

臨床心理学

科目責任者 野 畑 友 恵

学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

本授業では、人の発達とその支援について考える。発達は、自分や他者、周囲の状況などの変化に適応していく過程であり、すべての人が生涯にわたって発達の過程にある。しかし、変化の質や量、タイミング、そして変化に対する反応も人によって異なるため、変化への適応は時間を要したり困難が生じたりすることもある。このような発達は不適応行動の背景の1つであり、その支援を研究・実践している分野が臨床心理学である。そこで、発達の支援を行った事例を通して人のさまざまな発達過程に触れ、多様な適応過程と生き方を理解する。またこれらの事例を通し、発達過程の中で医療が果たす役割を考える。

II. 担当教員

野 畑 友 恵 (基盤教育部門)

III. 一般学習目標

多様な発達過程と生き方を理解する。

IV. 学修の到達目標

1. 各発達段階の特徴を説明できる。
2. 人の行動を発達の知識にもとづいて説明できる。
3. 発達過程の中で医療が果たす役割を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	11	16	水	4	発達と心理支援	野 畑 友 恵	2
2		30	水	3	乳児期の発達: 愛着		2
3	12	7	水	4	児童期の発達: 学校生活		2
4		14	水	4	思春期の発達: 自立		2
5	1	4	水	4	成人期の発達: 出産, 子育て		2
6		11	水	4	老年期の発達: 死別		2
7		18	水	4	発達の重なり: 親子関係		2

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

事前学習 (42%), 事後学習 (18%), 授業中の発言 (30%), レポート (10%) で評価する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

[教科書]

指定しない

[参考図書]

からだの病気のこころのケア 鈴木伸一 北大路書房 2016

これからの対人援助を考える 暮らしの中の心理臨床①うつ 野村俊明・青木紀久代 福村出版 2015

これからの対人援助を考える 暮らしの中の心理臨床④不安 青木紀久代・野村俊明 福村出版 2017

これからの対人援助を考える 暮らしの中の心理臨床⑤認知症 北村伸・野村俊明 福村出版 2017

Ⅷ. 質問への対応

質問は、授業の前後、研究室への来室、またはメールで受け付ける。

研究室への来室は、事前にメールで連絡することが望ましい。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習は、授業の中で確認、またはLMSに解説を掲載する。

事後学習とレポートは、LMSを使って個別にフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：資料を読み、自分の考えをLMSに記載する（所要時間の目安：10分）、ミニテストを実施する（所要時間の目安：5分）、LMSに掲載された他者の意見に読む（所要時間の目安：5分）

事後学習：授業から学んだことをまとめる（所要時間の目安：10分）

XII. コアカリ記号・番号

C-5-5